

令和6年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 槻田 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、6年生を対象として、令和6年4月18日（木）に、「教科（国語、算数）に関する調査」、文部科学省が指定した日（4月10日から4月30日の間）に「児童質問調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査（国語、算数）

教科に関する調査（国語、算数）
① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

- (2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査
<input type="checkbox"/> 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

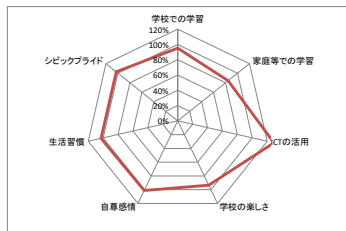
- (1) 全国・本市の学力調査（国語、算数）の結果

本年度の結果	国語		算数	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	9.3	66	9.6	60
全国	9.5	68	10.1	63

- (2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	「記述式」の問題が全国平均を大きく上回っていた。 「話すこと・聞くこと」に関する問題が全国平均を大きく下回っていた。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よってきた問題	「話し言葉と書き言葉との違いに気付くことができるかどうかをみる問題」(言葉の特徴や使いか) 「具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることができるかをみる問題」(読むこと)	
	努力が必要な問題	「目的や意図に応じて、話題を決め、伝え合う内容を考える問題」(話すこと・聞くこと) 「目的や意図に応じて、分類・関係付けをして、伝え合う内容を考える問題」(話すこと・聞くこと)	
算数	全体的な傾向や特徴など	「数と計算」、「図形」、「データの活用」領域が全国平均を大きく下回っていた。 「知識・技能」、「思考・判断・表現」の観点とともに全国平均を下回っていた。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よってきた問題	「問題場面の数量の関係を捉え、式に表すことができるかどうかをみる問題」(数と計算)	
	努力が必要な問題	「小数の割り算を計算できるかどうかをみる問題」(数と計算) 「表から必要な数値を読み取り式に表し、基準値を超えるか判断できるかどうかをみる問題」(数と計算)	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問調査結果の概要



質問調査の結果分析
・「ICTの活用」が全国平均を大きく上回っていた。「授業でPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使っているか」「学校の授業時間以外に、PC・タブレットなどのICT機器を勉強のためにどれくらい使っているか」の活用状況が高かった。
・「生活習慣」「自尊感情」「シブクプライド」が全国平均を上回っていた。特に、「毎日、同じくらいの時刻に寝ている。」割合が高かった。
・「学校での学習」「家庭等での学習」「学校の楽しさ」が全国平均を下回った。特に、「総合的な学習の時間では、自分で課題を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいるか。」「学校の授業時間以外に、どれくらい勉強しているか。(学習塾や家庭教師の学習も含む)」が全国平均を大きく下回った。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

- ① 教科に関する取組

どの教科でも、「自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組む」ことができるように、ICTを活用しながら、「個別最適な学び」「協働的な学び」の授業づくりを進める。また、意欲的に取り組むことができるように、日常生活に即した課題の設定をするなどの工夫をする。

- ② 家庭生活習慣等に関する取組

学校の授業時間以外の学習(家庭等での学習を含む)が定着するように、計画的に家庭学習の課題に取り組ませ、見直して実施していく。「シブクプライド」の更なる醸成を図るために、出前授業やゲストティーチャーを活用して地域や社会との繋がりを深めていく。